

薬剤師のかかりつけ機能強化に向けた全国会議
2019年9月1日

薬剤師の かかりつけ機能強化のための研修シラバスを 活用したスケジューリング

日本薬剤師会 常務理事
宮崎 長一郎

「患者のための薬局ビジョン」 ～「門前」から「かかりつけ」、そして「地域」へ～

平成27年10月23日公表

健康サポート薬局

健康サポート機能

- ☆ 国民の**病気の予防**や**健康サポート**に貢献
 - ・ 要指導医薬品等を適切に選択できるような供給機能や助言の体制
 - ・ 健康相談受付、受診勧奨・関係機関紹介 等

高度薬学管理機能

- ☆ **高度な薬学的管理ニーズ**への対応
 - ・ 専門機関と連携し抗がん剤の副作用対応や抗HIV薬の選択などを支援 等

かかりつけ薬剤師・薬局

服薬情報の一元的・継続的把握とそれに基づく薬学的管理・指導

- ☆ **副作用**や**効果**の継続的な確認
- ☆ **多剤・重複投薬**や**相互作用**の防止
 - ICT（電子版お薬手帳等）を活用し、
 - ・ 患者がかかる**全ての医療機関の処方情報を把握**
 - ・ 一般用医薬品等を含めた服薬情報を一元的・継続的に把握し、薬学的管理・指導

24時間対応・在宅対応

- ☆ **夜間・休日、在宅医療**への対応
 - ・ **24時間**の対応
 - ・ **在宅患者**への薬学的管理・服薬指導
- ※ 地域の薬局・地区薬剤師会との連携のほか、へき地等では、相談受付等に当たり地域包括支援センター等との連携も可能

医療機関等との連携

- ☆ 処方内容の照会・処方提案
- ☆ 副作用・服薬状況のフィードバック
- ☆ 医療情報連携ネットワークでの情報共有
- ☆ 医薬品等に関する相談や健康相談への対応
- ☆ 医療機関への受診勧奨

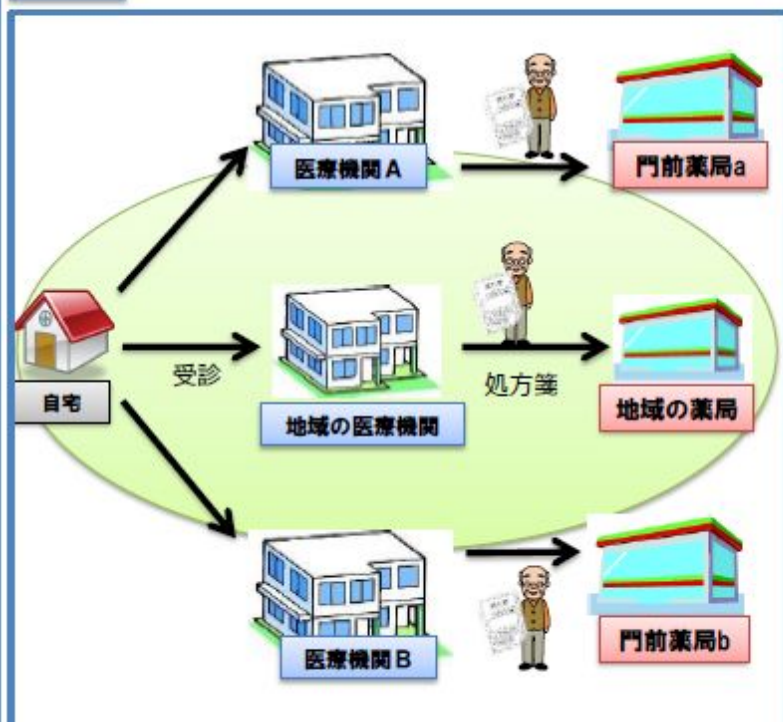
医薬分業を訴えてきた昔からの主張

医薬分業に対する厚生労働省の基本的な考え方

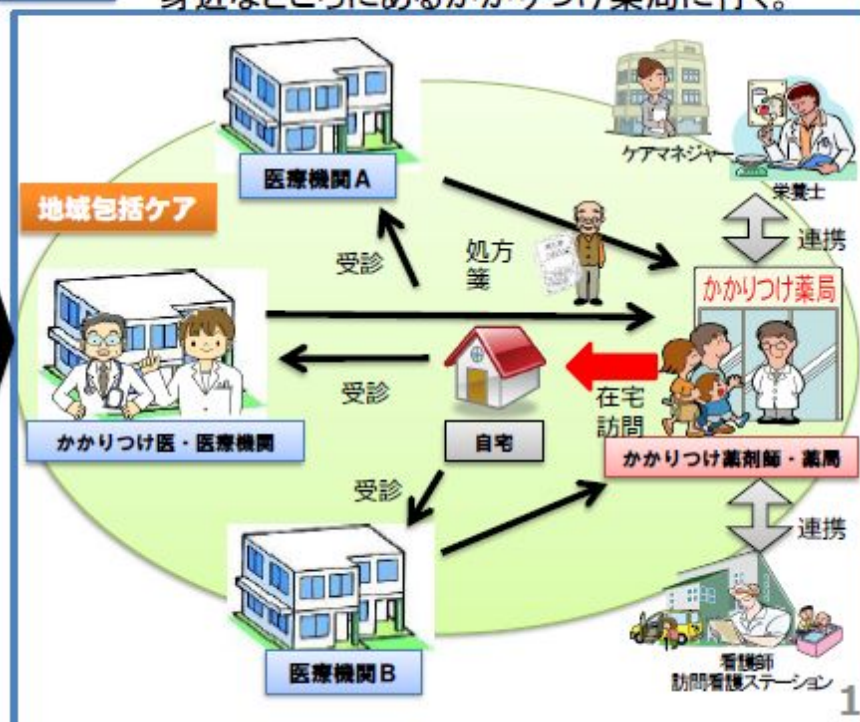
- 薬局の薬剤師が専門性を発揮して、ICTも活用し、患者の服薬情報の一元的・継続的な把握と薬学的管理・指導を実施。
- これにより、多剤・重複投薬の防止や残薬解消なども可能となり、**患者の薬物療法の安全性・有効性が向上**するほか、**医療費の適正化**にもつながる。

今後の薬局の在り方(イメージ)

現状 多くの患者が門前薬局で薬を受け取っている。



今後 患者はどの医療機関を受診しても、身近なところにあるかかりつけ薬局に行く。



資料出典: 厚生労働省「患者のための薬局ビジョン 概要」より

**薬物療法の安全性・有効性の向上に寄与するための
患者情報の一元化を図る**

患者本位の医薬分業の実現に向けて

地域包括ケアシステムの中で、かかりつけ薬局が服薬情報の一元的・継続的な把握や在宅での対応を含む薬学的管理・指導などの機能を果たす、地域で暮らす患者本位の医薬分業の実現に取り組む。



<患者本位の医薬分業で実現できること>

- 服用歴や現在服用中の全ての薬剤に関する情報等を一元的・継続的に把握し、次のような処方内容のチェックを受けられる
 - ✓ 複数診療科を受診した場合でも、多剤・重複投薬等や相互作用が防止される
 - ✓ 薬の副作用や期待される効果の継続的な確認を受けられる
- 在宅で療養する患者も、行き届いた薬学的管理が受けられる
- 過去の服薬情報等が分かる薬剤師が相談に乗ってくれる。また、薬について不安なことが出てきた場合には、いつでも電話等で相談できる
- かかりつけ薬剤師からの丁寧な説明により、薬への理解が深まり、飲み忘れ、飲み残しが防止される。これにより、残薬が解消される など

2

患者における一元化された医薬品の服薬情報を
評価し、判断し、提案する能力が必要

目指す姿

地域医療の質向上（健康状態・満足度・経済性の改善）

KPIイメージ：薬物関連有害事象減少、再入院率低下、HR-QOL向上、満足度向上・・・

薬物療法の
個別最適化

入院－外来・在宅
連続性のある薬物療法

多職種による
スムーズな地域連携

成果
(アウトカム)

KPIイメージ：

- プレアボイド（安全性・有効性）
- ポリファーマシー改善

- 薬剤費用の節約
- 患者・家族の負担軽減

- 早期受診者の増加
- 軽症患者の問題解決
- 他職種の問題解決

行動実績
(プロセス)

KPIイメージ：

- 応需機関の増加
- 薬歴・お薬手帳の活用
- 投薬後モニタリング
アドヒアランス、有害事象確認
- 服薬状況の情報提供
- 処方提案

- 在宅訪問の実績
退院時カンファ参加
- 時間外応需の実績
- 電話相談対応の実績

- 要指導医薬品の販売
- 受診紹介状の実績
- 地域包括ケアへの取組み
- 高齢者見守り事業への参加
- 啓発活動（情報発信）

構造・体制
(ストラクチャー)

KPIイメージ：

- 必要十分な商品の取り扱い
医療用医薬品、要指導医薬品、OTC医薬品、介護用品、衛生用品
- 薬剤師の資質（認定薬剤師）

- お薬手帳への対応
- プライバシー環境

- 開局曜日・時間拡大
- 時間外応需可
- 24時間電話対応可
- 在宅訪問可

- 健サポ届出
- 地域ICT参加
- 簡易検査可

薬局の体制

地域の体制

- 地域ICT構築
- 検査値・疾患名情報
- 地域包括ケア会議
- 高齢者見守り事業

①服薬情報の
一元的・継続的把握

②24時間・在宅対応

③医療機関等との連携

「患者のための薬局ビジョン」の実現イメージ

（「薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業」検討用資料 平成31年1月16日時点）

29(2017)年度 次世代研修会

30(2018)年度 次世代研修会

薬剤師のかかりつけ機能強化研修

目指すアウトカム

地域医療の質向上（健康状態・満足度・経済性の改善）

※赤字は、かかりつけ機能
黒字は、具体的役割の例示

かかりつけ薬剤師・薬局機能の発揮

薬物療法の個別最適化

処方内容チェック
患者の状況に応じた服薬指導
副作用モニタリング・フィードバック
患者の生活像を踏まえた適切な処方医との連携
(服薬設計・処方提案)

多剤投薬の解消

AMR対策

薬物療法の連続性

入退院時の医療機関との連携
在宅医療を含めた継続的薬学的管理指導
終末期における薬学的管理指導

公衆衛生・災害対策

感染対策 災害時対応

健康生活の推進 セルフケア支援

フレイル対策
認知症患者の支援
セルフケアの支援

他職種・他施設との連携

発揮するための資質向上カリキュラム

研修シラバス

I. 倫理・社会資源の活用

1. かかりつけ薬剤師の倫理 2. 患者安全 3. 医療・福祉の仕組み 4. カウンセリングスキル 5. エビデンスの創出

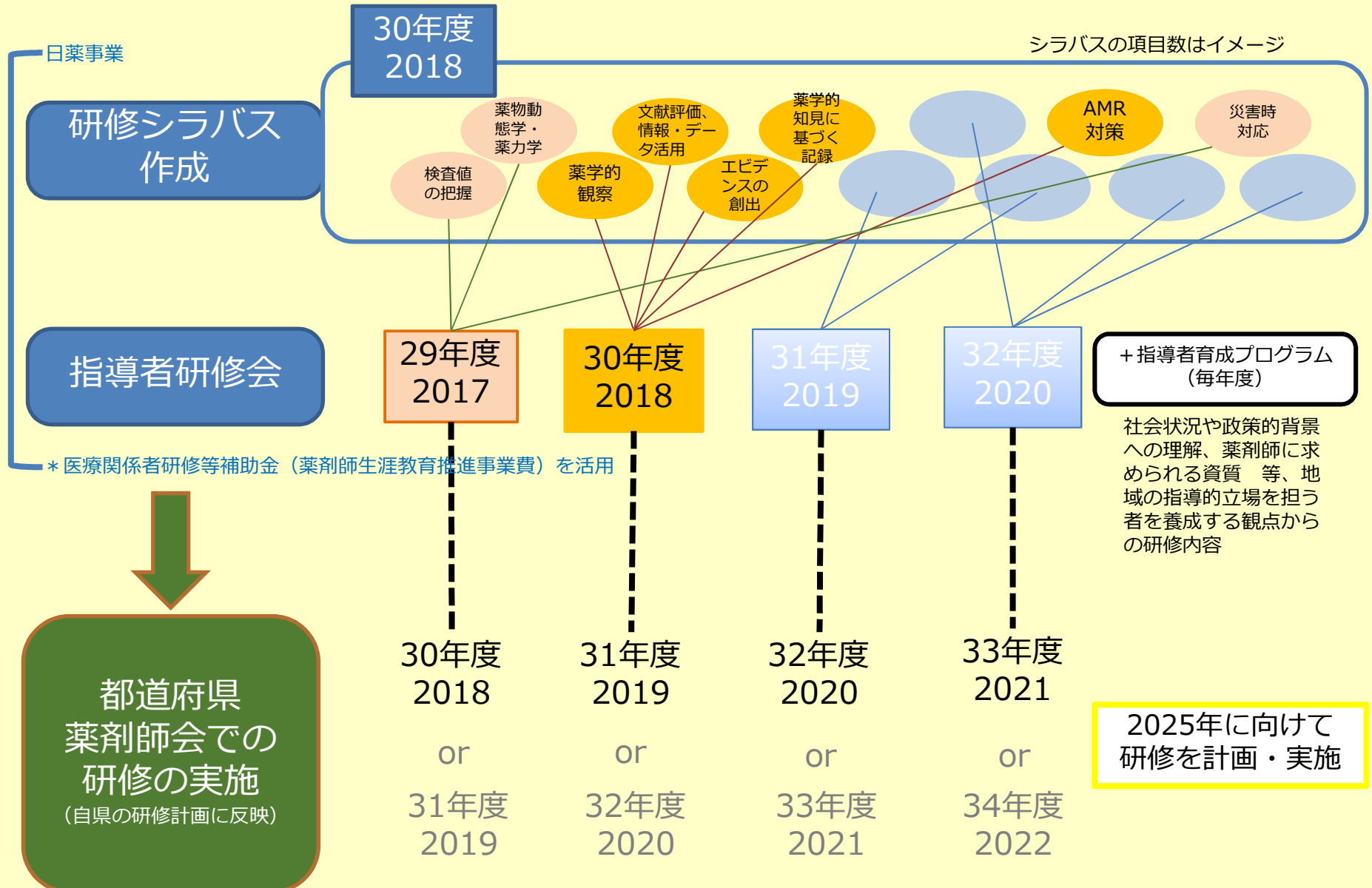
II. 医療薬学的知識と技能

- | | | | |
|------------------|---------------|------------|-------------------|
| 1. 薬理学 | 5. 検査値の把握 | 9. ハイリスク薬 | 13. セルフケア支援 |
| 2. 製剤学 | 6. 薬学的観察・評価 | 10. 生薬・漢方薬 | 14. 文献評価、医薬品情報の活用 |
| 3. 薬物動態学・薬力学 | 7. 薬物療法の提案と実践 | 11. 感染対策 | 15. 統計データの理解と活用 |
| 4. 小児、高齢者、妊婦・授乳婦 | 8. 副作用対策 | 12. 栄養管理 | 16. 薬学的知見に基づく記録 |

III. 疾病特性に基づく薬学的管理・指導の知識と技能

- | | | | |
|---------|---------|------------|----------|
| 1. 循環器系 | 4. 泌尿器系 | 7. 精神・神経系 | 10. 免疫系 |
| 2. 消化器系 | 5. 生殖器系 | 8. 皮膚・感覚器系 | 11. 悪性腫瘍 |
| 3. 内分泌系 | 6. 呼吸器系 | 9. 骨格・筋肉系 | 12. 感染症 |

都道府県薬剤師会における研修展開イメージ



注：都道府県薬剤師会でのスケジュールは理想的な例示であり、都道府県薬剤師会の実情に応じて実施。

都道府県内の研修計画を
立案・実行するためにどうするか？

各都道府県薬における研修会は どのような状況でしょうか

1. 年度開始時には1年間のテーマと講師は決まっている
2. 年度開始時には、1/3程度のテーマと講師ははっきりしている
3. 年間計画は枠だけあって、講師陣の決定は逐次行っている
4. 特に研修会の企画に関して、数年間の計画を立ててはいない
5. 各委員会によって研修会を実施しており、全体的な把握を行えていない

様々な年代の薬剤師の存在

	平成																				昭和																					
元号	3 1	3 0	2 9	2 8	2 7	2 6	2 5	2 4	2 3	2 2	2 1	1 0	1 9	1 8	1 7	1 6	1 5	1 4	1 3	1 2	1 1	1 0	9	8	7	6	5	4	3	2	1	6	6	6	6	5	5	5	5	5		
年齢	2 4	2 5	2 6	2 7	2 8	2 9	3 0	3 1					3 2	3 3	3 4	3 5	3 6	3 7	3 8	3 9	4 0	4 1	4 2	4 3	4 4	4 5	4 6	4 7	4 8	4 9	5 0	5 1	5 2	5 3	5 4	5 5	5 6	5 7	5 8	5 9	6 0	6 1

6年制薬学教育

4年制薬学教育

6年制最初の国試
処方箋受取率
65.1%

処方箋
受取率
51.6%

医療薬学重視の
国試へ
処方箋受取率
22.5%

研修シラバスの概要

発揮するための資質向上カリキュラム

I. 倫理・社会資源の活用 5項目

1. かかりつけ薬剤師の倫理
2. 患者安全
3. 医療・福祉の仕組み
4. カウンセリングスキル
5. エビデンスの創出

II. 医療薬学的知識と技能 16項目

- | | | | |
|------------------|---------------|------------|-------------------|
| 1. 薬理学 | 5. 検査値の把握 | 9. ハイリスク薬 | 13. セルフケア支援 |
| 2. 製剤学 | 6. 薬学的観察・評価 | 10. 生薬・漢方薬 | 14. 文献評価、医薬品情報の活用 |
| 3. 薬物動態学・薬力学 | 7. 薬物療法の提案と実践 | 11. 感染対策 | 15. 統計データの理解と活用 |
| 4. 小児、高齢者、妊婦・授乳婦 | 8. 副作用対策 | 12. 栄養管理 | 16. 薬学的知見に基づく記録 |

III. 疾病特性に基づく薬学的管理・指導の知識と技能 12項目

- | | | | |
|---------|---------|------------|----------|
| 1. 循環器系 | 4. 泌尿器系 | 7. 精神・神経系 | 10. 免疫系 |
| 2. 消化器系 | 5. 生殖器系 | 8. 皮膚・感覚器系 | 11. 悪性腫瘍 |
| 3. 内分泌系 | 6. 呼吸器系 | 9. 骨格・筋肉系 | 12. 感染症 |

総計 33項目

研修会はどの程度実施されているか

1. 研修センターで認定されている研修会の数
約18000件／年
1. 薬剤師会の地域薬剤師会総数 約710地域
2. 地域あたりの研修会回数 約24回／年

病院薬剤師会など薬剤師会以外の研修会もカウントされているので薬剤師会が主催されている回数はこれより少なくなるが、年間12回は地域単位で実施されていると推定

都道府県内での研修・講習会

1. 社会保険関係
2. 健康サポート
3. 医療安全関連
4. 実務実習関連
5. 県薬や地域薬剤師会の事業関連

＋ 学術研修会

研修シラバス実行の目的と成果

1. 都道府県薬剤師会と地域薬剤師会が会員へ向けて、体系的に研修会を提供
2. 会員にとっては、公表された研修会の開催計画を参考に、自己の研修を自律的に計画・受講
3. 薬剤師の医学・薬学的知識及び実践力の向上によるかかりつけ薬剤師機能強化

研修シラバスの実行は？

研修シラバス 33項目

3年間で網羅するとすると年間11項目

すべて地域薬剤師会で開催

すべて都道府県薬開催

} 無理

都道府県薬と地域薬とで内容を分担し
開催すること

	I. 倫理・社会資源の活用	担当		II. 医療薬学的知識と技能	担当		III. 疾病特性に基づく薬学的管理・指導の知識と技能	担当
1	かかりつけ薬剤師の倫理 患者安全 医療・福祉の仕組み カウンセリングスキル エビデンスの創出		1	薬理学		1	循環器系	
2			2	製剤学		2	消化器系	
3			3	薬物動態学・薬力学		3	内分泌系	
4			4	小児、高齢者、妊婦・授乳婦		4	泌尿器系	
5			5	検査値の把握		5	生殖器系	
			6	薬学的観察・評価		6	呼吸器系	
			7	薬物療法の提案と実践		7	精神・神経系	
			8	副作用対策		8	皮膚・感覚器系	
			9	ハイリスク薬		9	骨格・筋肉系	
			10	生薬・漢方薬		10	免疫系	
			11	感染対策		11	悪性腫瘍	
			12	栄養管理		12	感染症	
			13	セルフケア支援				
			14	文献評価、医薬品情報の活用				
			15	統計データの理解と活用				
			16	薬学的知見に基づく記録				

都道府県薬と地域薬剤師会において 研修項目の分担を協議

	I. 倫理・社会資源の活用	担当		II. 医療薬学的知識と技能	担当		III. 疾病特性に基づく薬学的管理・指導の知識と技能	担当
1	かかりつけ薬剤師の倫理 患者安全 医療・福祉の仕組み カウンセリングスキル エビデンスの創出		1	薬理学		1	循環器系	
2		2	製剤学		2	消化器系		
3		3	薬物動態学・薬力学		3	内分泌系		
4		4	小児、高齢者、妊婦・授乳婦		4	泌尿器系		
5		5	検査値の把握		5	生殖器系		
		6	6	薬学的観察・評価		6	呼吸器系	
		7	7	薬物療法の提案と実践		7	精神・神経系	
		8	8	副作用対策		8	皮膚・感覚器系	
		9	9	ハイリスク薬		9	骨格・筋肉系	
		10	10	生薬・漢方薬		10	免疫系	
				感染対策		11	悪性腫瘍	
				栄養管理		12	感染症	
				セルフケア支援				
				薬、医薬品情報の活用				
				データの理解と活用				
				科学的知見に基づく記録				

例えば
こんな風に
分けてみました

都道府県薬 17項目 地域薬 16項目

都道府県薬担当

地域薬剤師会担当

I. 倫理・社会資源の活用			II. 医療薬学的知識と技能		
		担当			担当
1	かかりつけ薬剤師の倫理	県薬	5	検査値の把握	地域薬
2	患者安全	県薬	6	薬学的観察・評価	地域薬
3	医療・福祉の仕組み	県薬	7	薬物療法の提案と実践	地域薬
4	カウンセリングスキル	県薬	16	薬学的知見に基づく記録	地域薬
5	エビデンスの創出	県薬			
			III. 疾病特性に基づく薬学的管理・指導の知識と技能		担当
II. 医療薬学的知識と技能			担当		
1	薬理学	県薬	1	循環器系	地域薬
2	製剤学	県薬	2	消化器系	地域薬
3	薬物動態学・薬力学	県薬	3	内分泌系	地域薬
4	小児、高齢者、妊婦・授乳婦	県薬	4	泌尿器系	地域薬
8	副作用対策	県薬	5	生殖器系	地域薬
9	ハイリスク薬	県薬	6	呼吸器系	地域薬
10	生薬・漢方薬	県薬	7	精神・神経系	地域薬
11	感染対策	県薬	8	皮膚・感覚器系	地域薬
12	栄養管理	県薬	9	骨格・筋肉系	地域薬
13	セルフケア支援	県薬	10	免疫系	地域薬
14	文献評価、医薬品情報の活用	県薬	11	悪性腫瘍	地域薬
15	統計データの理解と活用	県薬	12	感染症	地域薬

都道府県薬剤師会 17項目
約5－6項目／年

県内数カ所で同じ項目の講義を設定

地域薬剤師会 16項目
約5－6項目／年

年間5－6項目であれば、その他の研修会は
従来からの研修会を開催可能

都道府県薬剤師会のスケジュール(例)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
A 地域	かかりつけ 薬剤師の倫理		セルフケア支援									
	患者安全		文献評価、医薬 品情報の活用									
	医療・福祉の 仕組み		統計データの 理解と活用									
B 地域				かかりつけ 薬剤師の倫理							セルフケア支援	
				患者安全							文献評価、医薬 品情報の活用	
				医療・福祉の 仕組み							統計データの 理解と活用	
C 地域					セルフケア支援		かかりつけ 薬剤師の倫理					
					文献評価、医薬 品情報の活用		患者安全					
					統計データの 理解と活用		医療・福祉の 仕組み					

地域薬剤師会のスケジュール(例)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
2020年	検査値の把握		薬学的観察・評価		循環器系		泌尿器系		感染症		薬学的知見に基づく記録	
2021年	悪性腫瘍		骨格・筋肉系		消化器系		薬物療法の提案と実践		内分泌系		生殖器系	
2022年	呼吸器系				精神・神経系		皮膚・感覚器系		免疫系			

講師は誰に依頼するか

I. 倫理・社会資源の活用 5項目

1. かかりつけ薬剤師の倫理
2. 患者安全
3. 医療・福祉の仕組み
4. カウンセリングスキル
5. エビデンスの創出

II. 医療薬学的知識と技能 16項目

- | | | | |
|------------------|---------------|------------|-------------------|
| 1. 薬理学 | 5. 検査値の把握 | 9. ハイリスク薬 | 13. セルフケア支援 |
| 2. 製剤学 | 6. 薬学的観察・評価 | 10. 生薬・漢方薬 | 14. 文献評価、医薬品情報の活用 |
| 3. 薬物動態学・薬力学 | 7. 薬物療法の提案と実践 | 11. 感染対策 | 15. 統計データの理解と活用 |
| 4. 小児、高齢者、妊婦・授乳婦 | 8. 副作用対策 | 12. 栄養管理 | 16. 薬学的知見に基づく記録 |

薬学部や病院薬剤師等に依頼

III. 疾病特性に基づく薬学的管理・指導の知識と技能 12項目

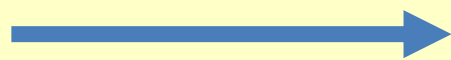
- | | | | |
|---------|---------|------------|----------|
| 1. 循環器系 | 4. 泌尿器系 | 7. 精神・神経系 | 10. 免疫系 |
| 2. 消化器系 | 5. 生殖器系 | 8. 皮膚・感覚器系 | 11. 悪性腫瘍 |
| 3. 内分泌系 | 6. 呼吸器系 | 9. 骨格・筋肉系 | 12. 感染症 |

薬局薬剤師の講師を探すまたは自前で養成する

Ⅲ. 疾病特性に基づく薬学的管理・指導の知識と技能

- | | | | |
|---------|---------|------------|----------|
| 1. 循環器系 | 4. 泌尿器系 | 7. 精神・神経系 | 10. 免疫系 |
| 2. 消化器系 | 5. 生殖器系 | 8. 皮膚・感覚器系 | 11. 悪性腫瘍 |
| 3. 内分泌系 | 6. 呼吸器系 | 9. 骨格・筋肉系 | 12. 感染症 |

単に薬物療法を学ぶという視点ではなく
薬剤師が各疾病の患者に向き合った際の行動
について学習する。
疾病毎の薬学的管理・指導の実現を目指す



様々なテキストが発行されているので
対応可能

薬剤師のための薬物療法に関する研修会



専門医の講義だけ

それだけでいいのか

医師が薬学的管理・指導を語れますか？

薬学的管理・指導は誰の仕事？



薬剤師の仕事

薬剤師の仕事は、疾病を持った患者に薬学的な側面を通じて、疾病の治療や生活の質を向上させることを目的としているなら、疾患に対して、薬物療法ガイドラインや使用薬剤の特性に応じて、薬剤師自身が考えて患者に働きかける行動が大事である。それが、薬学的管理・指導。

我々で**薬剤師が各疾病の患者に向き合った際の行動**
作り出していきましょう。

Profession (専門職) でありたいか

Laborer (労働者) でありたいか

国民に対する
薬の専門家・責任者・プロフェッションとして
なすべきことをしましょう

- 6年制薬学教育の実施
- 70%を超えた処方箋受取率の達成
- 病棟常駐への評価

研修の本来的な目的

- 教育事業の利益は、教育を受けた若者たちがやがて人間的な成熟を遂げて、共同体の次世代を支えるという仕方で**未来において償還される**。
- 教育事業の受益者は教育を受ける個人ではなく、**共同体の未来**である。

神戸女学院大学名誉教授 内田樹

 **薬剤師の未来であり、国民の未来**